

# 会 議 録

会 議 名	令和3年度第1回 辰野町図書館協議会
開 催 日 時	令和3年7月30日（金） 午前9時00分～10時00分
場 所	辰野図書館2階会議室
出 席 者	委員6名中6名、事務局4名
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会のことば</li> <li>2. 教育長あいさつ</li> <li>3. 協議事項（進行 会長） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 令和2年度図書館利用状況</li> <li>2) 令和3年度蔵書点検結果報告</li> <li>3) 令和3年度図書館事業について</li> <li>4) その他</li> </ol> </li> <li>4. 閉会のことば</li> </ol>
会 議 結 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 協議事項（進行 会長） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 令和2年度図書館利用状況について 事務局から説明し、質疑を経てご了承いただく。</li> <li>2) 令和3年度蔵書点検結果報告 事務局から説明し、質疑を経てご了承いただく。</li> <li>3) 令和3年度図書館事業について 事務局から説明し、質疑を経てご了承いただく。</li> <li>4) その他 図書選定について 選定にご協力をお願いした。1件提出あり。 小野図書館について 事務局より説明。</li> </ol> </li> </ol>
発 言 者	発言の内容
教 育 長	<p>忙しさの中ですっかり忘れていたが、図書館の入り口に七夕があった。子どものころ、サトイモの葉にたまった露で墨をすって短冊に書くと字がきれいになるといわれていて毎年願いを書いたのを今でも思い出す。こういうしきたりは今では随分なくなってきて家ではほとんどやられなくなってきていて、残念だけれども大事にしないといけない日本のしきたりと思う。こういう部分を大事にしてくれている町の図書館だとありがたく思っている。東京オリンピックが開催されてスポーツする選手の姿に感動する一方、コロナも依然猛威をふるい先が分からない状況が続いている。昨年度に続き今年度も図書館の在り方が随分問われている。図書館の持つ機能と果たす役割と使命を失わないように苦勞して工夫して乗り切っていただいている。コロナが続き価値観も変わりつつあるが一方では大事にしなければいけないものを大事にしながら変化にも対応しなければいけない。今年度第1回目の協議会、事業計画などしっかり審議いただきたい。</p>
会 長	<p>（3. 1）～4）まで事務局説明）          コロナの状況が厳しくなっている中、図書館はいろいろ工夫をして様々な行事等続けていることに感謝する。利用状況を見るとどうしても入館者は減っており、こういうご時世でやむを得ないが、また別の意味で図書館の役割が重要になってきていると言える。まず、図書館利用状況からご質問などあったらお聴きしたい。</p>

会 長	(1)について意見なし)では2) 蔵書点検の結果についてはいかがか。全体としては不明本が少ないという話で、図書館管理もしっかりしていただき、町民の意識も高まっているということかと思う。
B	利用者の立場からだが、人気のある本はどんなに人気があっても購入するのは1冊なのか。
事 務 局	いろいろな軋轢がある。出版界とか地元の書店など。同じ本を2冊以上持つことを複本というが、複本問題というのが全国的にかなりある。例えば、ベストセラー本は横浜などは100冊単位で購入するらしく、このあたりでは考えられない規模で購入する。それでも200人～300人という順番待ちになることもある。ただ、塩尻の書店の話で、あちこちに図書館ができて貸出数が増えると同時に、本の売り上げが激減して、何年か前に比べると一割～二割しか売れないということも言っていた。図書館というのは著作物を使った活動が大きいので、そこを保護することも考えなければいけない。利用者が例えば20番30番という予約待ちで早く提供したいという気持ちは職員はあるが、反面、著作物を守るといふ、本を書く人・編集する人・出版する人・取次・書店という人たちが関わって1冊の本ができていく。その中で図書館も活動が出来ている側面があるので、なかなかリクエストが多いから・予約がだくさん入ったからといってすぐ複数購入することに踏み切れない。特にうちくらいの規模の図書館では難しさがある。過去に複本で購入したのは村上春樹の1Q84シリーズとハリーポッター。それ以外はたまたま寄贈いただいたものを複本で置いたりしたことはある。難しいところで、いつも葛藤を抱えて仕事をしているのが現状。
B	いつも借りたいと思う本が2冊ぐらいあるが半年ぐらいずっと貸出中で、これは買うしかないと思った頃に文庫が出て、それなら買ってしまおうとなる。割と早い期間で文庫化される。
事 務 局	貸出中の資料は予約を入れさえすれば、順番で連絡を差し上げている。カウンターでのお申し出の他インターネットでも予約できるので活用いただければ。 昔は出版と図書館は犬猿の仲だった。図書館があるから本が売れない、出版不況は図書館のせい、みたいに言われていた。今はそうでなく、お互い譲り合い認め合うことで手をつないで、出版不況とか活字の文化の衰退を何とか防ごうという動きが出てきているのが全国的な動き。それでもなかなか、電子ブックだとか、音楽でもなんでもストリーミングとあって、自分で買わなくても手に入るという時代の中でかなり苦戦しているのが実際とところと思う。辰野図書館が複本を入れるというのはよっぽどのことではない。ただ、郷土資料についてはなるべく複本化していく。今回も小野図書館からもってきた辰野町資料なども登録して、今まで貸出してなかったものは2冊ほど貸出に提供できるようにしている。
会 長	人気のある本はすぐ読みたいという要望はあると思うが、お話いただいたような事情もあり複本は難しということ。では全体を通して何かありますか。
B	図書選定について。出版されて概ね3か月とあるが、概ねならば半年くらい良いのか。基本図書とはどのようなものか。歴史的、文化的、いろいろな観点があると思うが。
会 長	選定基準が、文言化されたものがあるか。
事 務 局	図書館の条例または規則では、町民の方から要望があったものはなるべく入れるというような文言はあるが、具体的に決まったものはなく、職員が選定をしている。出版されてから概ね3か月以内というのは、特に文芸書や実用書について、新しいものでないと利用者に飽きられる。先ほどの文庫化の話もあったようにサイクルが

事務局	<p>早くなっている。実用書や文芸書はサイクルが短いのでなるべく新しいものを入れたいという気持ちがある。よく売れているような本は大きな図書館で入れていることがあるので、3か月～4か月前のものであれば相互貸借でも対応できるということもあり、概ね3か月以内ということで皆さんにはお願いをしている。基本図書というのは、私たちもいろいろな出版情報に目を通しているが、辰野図書館で持っていたほうがいい本。郷土資料はもちろんなければいけない。辰野町固有のものは絶対持っていなければいけない。歴史に関するものとか、レファレンスとって参考業務に使う事典類、そういったものはなるべく入れておきたい。古典的なもので読み継がれているもの、例えば『夜と霧』、『沈黙の春』などそういったもので新しいものが出たという情報を教えていただけると、職員だけでは目を通しきれない部分があるので、一年間で8万冊出版されているので、こんな本が出たけれど図書館に入れておかななくていいか、みたいなかたちで教えていただけるとありがたいので、選定をお願いしている。基本図書が何かといわれるとはっきり説明はできないが。</p>
会長	<p>もう何年前になるか、私の記憶では一回だけ、その本を入れるかどうかという協議をした。(元少年 A 著『絶歌』)巻では評判になるが公共図書館に置くのはどうかという。最近はそのようなことで悩んだことはないか。</p>
事務局	<p>最近はないか。会長のお話の本は『絶歌』とって少年 A、酒鬼薔薇聖斗が自分の思いを書いた本。大ベストセラーになったが、辰野図書館としては遺族の方がその出版を許せないという声明を出したりしてあったので入れなかった。ただ、リクエストはあってそれはよその図書館からお借りすることはした。そういうものは又あれば相談するかもしれない。</p>
会長	<p>他に何か。(なし) せっかくなので学校図書館の様子などをお聞きしたい。</p>
E	<p>辰野西小学校に9年いて、今年度辰野中学校に異動した。初めての中学で蔵書類もいろいろ分からない状態で仕事している。過去の統計を見てみたところ、西小学校にきてから貸出数が上がっていった。行ったとき80だったのが100超えるという状態になった。その頃の様子をみるとやはり、中学も2年後くらいから貸出数が上がってきていて、倍近くになっていた。他校の司書の方々も力のある方がだんだん増えてきて、替わる方が多い学校というのはなかなか継続していくことが難しいので、ある一定期間司書はいないと成果というのが見えない。一生懸命やっているとそこからまた貸出数が上がっているというのがよく分かった。それを見てより一層頑張らなければいけないと感じた。中学は図書館の時間が全くないので、休み時間にいかに子どもが来てくれるか。西小にいたので半分は知った子たちなので、懐かしがって来てくれて、去年の倍いくかいかないか、今年度この3か月だけでも貸出数が伸びているのを実感した。小学校にいたときは、それ以前の読書活動というか、本を子どもにどう与えるか、おうちや保育園・幼稚園でとか、そういうのが大事と思っていたが、小学校もやはり大事だったというのを痛感した。中学はなかなかおうちの方とというのも難しいので、先ほど町図書館でもできるだけリクエストは対応したいと言っていたが、私が中学で何をやりたいかという、小学校はそれほど読みたいという希望が多くない。中学はすごくリクエストが多い。リクエストの本を発注して購入して入れて子どもに渡すということで手いっぱい仕事しているような状況。それだけ子どもたちが読みたいという気持ちがあるというのがいいと思う。その読みたい気持ちをつぶさないようになるべくリクエストのものが、もちろん、絶版になっていたりプレミアで高額になっていたりはお断りもするが、なるべく購入して子どもたちの読書の意欲を落とさないようにしていきたいと思っている。中学はそのあとが難しい。司書会の小中高連絡会というのが年に1回だけ</p>

E	あり、去年はコロナの関係でなかったが、令和元年度の時高校の司書の先生が、高校の貸出トップ10の資料を見せてくれたが、高校はマンガが軒並みでショックだった。高校の先生たちもそれは悩み。どうやったら読んでもらえるか。中学でできることはしたいが、そのあとをどうしていったらいいかということを感じた。ここから町図書へつなげる、という風にしていけたらいいと思う。
会 長	保育園の様子は。
D	昨日も移動図書に来ていただいた。毎月各園回ってもらって、子どもたちもその日を朝から喜んで、絵本の袋持ちながら、何を借りようといいながら登園してくる。保育園の子どもたちは本当に絵本が大好きで、年中くらいになると自分で持ってきて読んでいる子もいるが、やはり読みきかせをしてもらいたいという子が多いので、毎日各クラス一回は絵本を読むように、職員が読みきかせの時間をとるようにしている。絵本を読んだ後、知っている本でも知らない本でも、最後まで集中して聴く姿があって、終わった後絵本に対しての感想とかすごく話してくれて、絵本に対して熱意をもって見てくれているのかと感じる。ボランティアの方にも毎月来ていただいているが、ボランティアさんが来るもの毎月待ち焦がれていて、3冊くらい読んでくれる方もいて、帰り際には帰ってほしくなくて引き留める子も何人かいる。そのくらい絵本のことを、子どもたちは大事に大事にしてくれているのかと思う。ただ、おうちへ帰るとやはり YouTube だとかそういう話を多く聞く。移動図書も「うちはいいです」というおうちもあり、子どもの気持ちと保護者の気持ちの温度差があるのかとも感じ、そこはどのような風に保育者として伝えていったらいいのかと感じている。
会 長	読書支援ボランティアのお話をお聞かせください。
A	去年はコロナで読みきかせを中止していたが、今年の4月からまた担当で行けるようになった。今保育園の方から喜んでもらえてると聞いて大変うれしく思う。ボランティアの皆も回数も結構増えているので、持っていく本を、何をもっていったらいいのかというので頭を悩ませている。同じ本でも読み手が違うとまた印象も違ってくるのでそれはそれでいいのかとも思う。学校にも行っているが子どもたちは本当に熱心に聴いてくれている。そういう面から、絵本から少しずつ本を読みたいとか好きになってもらえたらいいという思いで活動をしている。話は違うが、今携帯電話やパソコンで小説やマンガが読める時代。その影響はどうか。
事 務 局	公共図書館でいうと、コロナの影響で電子書籍導入の図書館は一気に増えたといわれる。貸出も増えたと思うが、その影響で本の貸出が減ったということはないと思う。利用者は、電子図書と紙の本と使い分けをしているのではないか。
C	昨日の新聞記事に子どもたちの成長のことが載っていて、今でいう電子的なものを見ることによる視力低下などのことが書かれていたり、体形が痩せ肥満など、これからの時代のそういった症状、傾向が子どもたちの体に出ているのかと第三者的に気になる。
事 務 局	小さいころからずっとそういった環境にあると、視力の低下や、脳への影響、姿勢の悪さから骨格にも影響があると思う。
B	『デジタル馬鹿』をたまたま主人が借りて読んでいます。これはみんな読まなきゃいけないと思って読んでいます。自分たちもそうなっているので、目が疲れないうように動画を流しておいても音は入ってくるので情報は入ってくるので動画情報は便利。つつい利用している。警鐘を鳴らしていく必要があるかもしれない。
事 務 局	図書館のセカンドブックという、3歳のお子さんに絵本のプレゼントをする事業を行っているが、その際には職員の口から、日本小児科医会というところの先生たちが

事務局	出した提言がある。小さい子どもさんをお持ちのご家庭に向けた提言で、ざっくり言うと、子どもたちを機械の音や映像から守ってあげてほしいということ。それは日本小児科医会のホームページへ入っていただくと提言されているのでわかると思うが、そういうことは一応図書館サイドからは3歳の翌月来ていただいたご家庭の保護者の方にはお願いはしている。なかなかそれで家へ帰ってすぐテレビやパソコンを消すかといえはなかなか、行動を変えるまでの力は及ばないかと思っている。
教育長	デジタルというと非常に今私が危惧しているのは、小・中・高校の教科書がこれからデジタル教科書になっていく可能性が非常に高くなっている。文科省がこの次の教科書改訂からデジタル教科書にといひ始めたが、今回はそれを撤回したのだけれど。子どもたちにとって教科書とは、確かにデジタル教科書はデータも資料も豊富だし、見たい資料にすぐたどり着ける。便利なんだけれどやはり紙の教科書にはかなわないと思う。子どもたちだけでなく人間に入る情報として紙から得た情報と同じものをデジタルで得ると、デジタルから得たほうが残らないという。頭に残らない。紙ベース、紙の教科書の方がはるかに脳に残っているという。先ほどの弊害もあるが、日本がこれからすべてデジタルと国をあげて進もうとしていることが本当にこれからの子どもたちにとっていいことなのかどうなのか心配である。デジタルは便利な部分もあるがそれにすべて依存するのではなく、教科書は紙でそして鉛筆でノートに書くという、タブレットの画面に指の腹であるいはペンで書くのではなくて、やはりある程度の筆圧をもって鉛筆できちっと書いていく、国語だとか算数や数学の計算をする、そういうアナログな部分はすごく大事だと思う。外国ではデジタル化の進んだ国は再び紙に戻りつつあるという。日本はそれに学ばずに突っ走っているのが非常に心配される。
会長	コロナ騒ぎがこれを一気に加速させてしまった。いろいろな問題を貼らんでいる教育や図書のデジタル化である。
教育長	E先生にお聞きしたいが、高校生がマンガへ行ってしまうのはなぜなのか。理由とかわかりますか。
E	中学も、小学校からきてみて分かったがマンガもおいている。そうするとほんの短い10分でも来て図書館へきてマンガを読んでリラックスして図書館を出ていくというような子たちもかなり、男の子は特に多くいる。小学校と比べると図書館の在り方も違うし、マンガというものが子どもたちにしたら、きちきちの時間で動く中で、ここでリラックスしてまた頑張ろうというような、英気を養っているような感じを受ける。高校もやはり部活とかでものすごく疲れていたりとか、やらなければいけない学習がある中で、ネットで好きなフォローしている方のサイトを見たりとか友達からのLINEとかあるが、でもやはりマンガでリラックスしているのかなという感じは受ける。それがすべてではないとは思いますがやはり興味や学力とは別のそういう大事なこともかかわっているような気がする。
教育長	マンガがいけないというわけではないが、結構難しいことも分かり易くマンガで表現しているものもあるし、でもやはり良い本を、良書をきちっと読ませたいという願いもある。
E	先日、辰野高校との交流があり高校の先生が来た。自分も中学でどういう活動をしたらいいか分からなかったなので、どうやって子どもに本をアピールしているのか、いろいろな話をした。高校の先生も、こういう風にやればいいのか、とか、これは自分もやってみたい、と言っていた。高校の先生は人数が少なくて正規の方は一校にかなり長くいられることが多い感じがするが、刺激が要るのかもしれないと思った。

C	<p>昔だったら一生懸命本を読むというのは勉強のためなどだった。今、情報はみなタブレットなどで入ってくる。そうすると頭の中に絶えず情報が、好む好まざるにかかわらずどんどん入ってくる。でもマンガとかアニメとかというのは、その時間その世界に入る。そうすると唯一気分転換じゃないけどそのような題材にはなる気はする。気になるのは、戦いのシーンなどに妙に子どもたちが取りつかれているのではないかというところ。今自分も中学校に顔を出しているが、中学校である先生が体育の授業をタブレットでやった。体育をなぜタブレットでやるのかと思ったら、だれがどの練習をすればいいかというのがすべてタブレットに出ていて、それを個人個人がやっている。だからみんなでチームワークを作ってやる授業というのとは違う。個々がタブレットに向かって自分はこれができたとかで、一つの授業というのを見た。これからどういう風に学校がタブレットを使ってやっていくのだろう、全然そこには気持ちも心もないしという感じがしたので、おじさんからすると不思議な世界が教育の現場で出てきているのだと思った。</p>
会長	<p>非常に重要な、教育界全体、社会全体が抱えている問題にもご意見いただいた。ほかに、小野図書館がなくなってその後、地元の方では何かありますか。</p>
C	<p>なかなか、自分としてはあの図書館のあのかたちが好きで、地域の癒しになってくれればいいのだけれど、建物自体が危ないといわれたので、その辺は残念。以前はあそこで夏休みの補習じゃないけどそういう授業をされたこともあったので、あの空間が活かされればいいなと思う。本当に残念な気がする。</p>
会長	<p>新たな活用法については地元では何か出ていないですか。</p>
C	<p>結局、建物とかあの空間という発想しか私自身もないし、もしそういう声が拾えるのであれば、学校のことでまだあの辺が使えるということが分かれば、こちらの地域の方で、使えるけれど何か考えない、という提案をしてくこともできる。その辺また教えてもらえれば地域で活用できる方法考えたいと思う。</p>
会長	<p>全体を通して何か。(なし)  本日は早朝から、外はどんどん暑くなって大変な中、協議いただきありがとうございます。以上で協議を終わらせていただきます。</p>